近大×マナビズム
過去問解説2025
テキスト 現代文

問題

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔一〕の 1 から 13 までとする。

それでは、もうひとつの「同化」に注目する方法とはどのようなものでしょうか。実は本章でさまざまなジレイ(a)について解説してきたのが「同化」に注目する方法です。すなわち、①差別論は基本的に「同化」に着目する方法を採用するのです。

※認識のズレの解決が困難なのは、②「われわれ」というものが見えにくいことにあります。ほとんどの場合それは直接語られることはなく、「他者」を示すことによって間接的に構成されています。また、「われわれ」ははっきりとしたリンカク(b)を持たず、ほかの社会的カテゴリーで置き換えることも基本的にできません。「われわれ」は見えない社会的カテゴリーだといってもいいと思います。

それでは、どうすればいいのかというと、「われわれ」は見えなくても「われわれ」を作ろうとする行為、すなわち「同化」メッセージは必ず見ることができるという点に着目するのです。

「見ることができる」というのは、たとえば私が「これこれが同化メッセージです」などといった解説をするまでもなく、その場にいる人たちは「同化」メッセージを認識し、それに影響を受けています。だからこそ排除が起こるわけですし、差別行為が連鎖するのです。

ただ、認識しているといっても、明示的に理解しているのではなく、暗黙のうちに語られたものを暗黙のうちに理解し、暗黙のうちに「われわれ」という視点から「被差別者」を認識し、それに基づいて行動しているわけです。そのため、暗黙のうちに理解している「同化」メッセージを表に引き出すための仕掛けが必要です。それが三者関係モデルであり、そのなかでも特に「共犯者」という概念です。

（中略）

このように、「同化に着目する方法」は、原理的には他者の抽象化にも他者の客体化にも対応でき、「認識のズレ」という問題に対して根本的な解決策であるといえます。

しかし、実際にはこれはそれほど簡単なことではありません。同化メッセージの読み取りを困難にしている原因がいくつかあるからです。

まず第一に、「差別」についてのある種のイメージが、同化メッセージの読み取りを困難にしています。差別は「差別者」による「被差別者」に対する行為なのだという二者関係での捉え方、あるいは差別は（意図的な）侮辱や攻撃なのだという認識、そういった、これまでの差別についての常識的な考え方が、具体的な文脈から視線をそらさせてしまうのです。③このような「常識的な考え方」を本書では「偏見理論」として把握し、第3章においてⓒテッテイ的な批判を試みます。

第二に、同化メッセージはそもそもあいまいな形で送られる理由があるからです。この「同化メッセージのあいまい性」という論点は、差別について考えるうえできわめて重要であると私は考えています。

同化メッセージはなぜあいまいな形で送られるのでしょうか。それは、「同化」が暗黙のうちになされるように仕組まれているからです。

「差別者」が作ろうとする「他者」と「われわれ」の壁は、そのような壁があるのだという主張や、壁があるのだと考えてほしいという提案として語られるものではありません。そのような形だと④「壁」自体が議論の対象となってしまうからです。そうではなく、「壁」は初めから存在しているのだとして、それは前提であるとして語られる必要があります。そして、「前提として語る」ための最も強力な方法は、情報を省略することです。

たとえば⑤次のような会話が交わされている場面に立ち会ったとしたら、あなたはそれをどう受け止めるでしょうか。

A「あいつってアレなんだぜ、おまえも気をつけろよ」

B「ああ、やっぱりあいつはアレだったのか」

「アレ」が何を指すのかはこの文章だけからはまったくわかりませんが、Aは、「アレ」という言葉が何を指すのかをBが

知っていること、Bは「アレ」でないこと、さらに「アレ」は「気をつけなければならない」存在であることを前提として話していることはわかります。その前提を受け入れなければAの発言は意味をなさないからです。そして、それらのことを明示的に語らないことによって、「われわれ」にとって既知の事実であると示しているのです。

しかし、「前提である」ということは、Aがそのように語っているだけであって、「前提として共有されている」という事実を意味しているわけではありません。実際にはBが「アレ」について十分な知識を持っているとは限らないでしょうし、Bが何かを知っているとしても、「Bが知っている」ということをAが知っているかどうかもわかりません。

それではもし、Bが「アレ」について十分な知識を持っていなければどうなるでしょうか。「おまえも気をつけろよ」と、明らかに返答を求められているわけですから何かいわないわけにはいきません。まったくケントウもつかなければ「アレってなんのこと?」と尋ねることも考えられますが、その場合は「なんだおまえアレも知らないのか?」などとさげすまれることを覚悟する必要があるでしょう。それが嫌なら前後の文脈から判断して適当に話を合わせるしかありません。すなわち、「われわれ」は知っているはずだ、という形で提示する（情報を省略する）ことによって、知っていることを「われわれ」の条件として構成しているわけです。この例において、同化メッセージは「アレ」という語彙にあるのではなく、「情報の省略」にあるのだということができるでしょう。

「被差別者」を表す隠語や身振りなどによるシンボルがしばしば用いられることも、基本的に同じ理由です。これは何かを「隠す」ことが目的なのではなく、それが［11］であるとして示すために隠語などが用いられるのです。

（中略）

「同化」メッセージは、基本的に「わかる人にしかわからない」ように発せられており、それを「わかる」ことによって、相手を「わかる人」すなわち「共犯者」として取り込んでいくのです。この「わかる人にしかわからない」という性質は、同化メッセージの読み取りを困難にするだけでなく、差別に対抗する戦略を考えるうえでも非常にヤッカイな問題をもたらしてしまいます。

「わかる人にしかわからない」メッセージを「わかる」ことによって同化されてしまうということは、そのメッセージはある人にとっては同化メッセージであるが、ほかの人にとってはそうではない、ということになってしまいます。そのため、まず第一に、ある発言や行為が差別であるかどうかを客観的に示すことができません。実際、「差別表現」というものはすべて、受け止め方によってどちらとでもとれるようなあいまいさを持っています。このことは、「同化に着目する方法」が差別の告発には適していないということを意味しています。まったく告発ができないわけではありませんが「弱い」のです。この点については、第4章において、より詳細に検討しようと思います。

第二に、もし「わかる人にしかわからない」メッセージを「わかった」とすると、そのときにはすでに「同化」されてしまっているのです。先ほどの「アレ」という言葉だと、「ははぁ、アレってのは○○のことだな」とピンときた瞬間に、「アレ」を「他者」として認識する視点が作られてしまいます。つまり、同化メッセージを読み取ろうとすると、そのことによって「同化」されてしまう。そのために結局、他者の客体化の罠（わな）からは抜け出せないという結果になってしまいます。

これはちょっとわかりにくいかもしれないので、「女ってのは……」※の例でもう少し説明してみます。もしその発言を聞いた人が、「ははぁ、この人は『女は論理的ではない』といいたいのだな」と「正しく」メッセージを読み取ったとしても、⑥すでに論点は「私にはわからない」から「女はわからない」にシフトしてしまっています。そのため、そのようなメッセージの読み取りを前提にした場合の反論は「女は論理的ではない、ということはない」といった言い方にならざるをえません。これでは「他者の客体化」の問題にはまったく対応できていないといえるでしょう。

いったいどこがおかしいのでしょうか。実は、「同化に着目する方法」において同化メッセージを「見る」ということは、そのメッセージの内容を「わかる」ことではないのです。そうではなくて、「わかる人にしかわからない」メッセージであるということを「わかる」ことが必要なのです。言い換えるなら、あいまいなメッセージのあいまいさを埋めて明確にすることが必要なのではなく、メッセージがあいまいに発せられていることそれ自体に注目しなくてはならないのです。もう一度「アレ」の例を引き合いに出すと、「アレ」とは何を指しているのだろうかと考えるのではなく、なぜ「アレ」というあいまいな

言葉を使ったのかを考えることが必要なのだということです。

このようなメッセージの読み取り方には、特殊な態度を必要とします。なぜなら、あいまいなメッセージに対して、人はまずそのあいまいさを取り除こうとしてしまうからです。

（中略）

このように考えると、⑦同化メッセージのあいまいさは、実は同化メッセージを読み取ることを困難にしている要因ではないということがわかります。なぜなら「あいまいさ」それ自体を捉えることが目的なのですから。しかし、そこには別の困難があります。すなわち、「あいまいさ」を捉えるためには、特殊な態度が必要だということです。

それでは、その態度とはどのようなものなのか、さらに、どうすればそのような態度を身につけられるのか。この論点についても、第4章で考察しようと思います。

（佐藤裕『新版　差別論――偏見理論批判』による。ただし本文の一部を省略した）

※認識のズレ……差別される側は明らかな差別だと認識している行為や状況を、差別する側は差別と認識していなかったり差別だと指摘されても理解できない、といったズレ

※「女ってのは……」の例……本文に先立つ箇所で、筆者は次のような仮想の例を検討している。「ある男性Aが女性Bと何かのトラブルでいい合っています。しかし議論はすれ違い、平行線のまま終わりました。女性Bがその場を離れたあと、同席していたが発言していなかった男性CにAが話した言葉が『まったく女ってのは何を考えているのかさっぱりわからないね』でした」

問一　二重傍線部ⓐ～ⓔの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1
ⓐ　1 ホウレイ遵守　2 シュウレイの候　3 全身ゼンレイ　4 辞書のハンレイ

2
ⓑ　1 患者をカクリする　2 チカク変動　3 敵をイカクする　4 カッコウが鳴く

3
ⓒ　1 制限のテッパイ　2 テツメンピ　3 初志カンテツ　4 大臣のコウテツ

4
ⓓ　1 現場ケンショウ　2 センケンの明　3 質実ゴウケン　4 ケンガクの理念

5
ⓔ　1 病がカイユする　2 高齢者のカイゴ　3 ジカイを込める　4 セッカイ岩

問二　傍線部①の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6
1 「われわれ」が他者を排除する差別行為においては、必ず同化メッセージが発せられるから
2 差別者による被差別者への攻撃が見えなくても、同化メッセージなら確実に見られるから
3 差別を論じるには、暗黙裡に送られる同化メッセージを受け入れ理解することが重要だから
4 他者の抽象化や客体化という認識の誤りの根本的な是正こそ差別論の目指すところだから

問三　傍線部②はどのようなものか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

1　間接的な語りによって浮かび上がる社会的カテゴリー
2　集団を構成する条件が明確ではない社会的カテゴリー
3　他者ではないことによって括られる社会的カテゴリー
4　通常は存在しないことにされている社会的カテゴリー

問四　傍線部③に対して筆者はどのように考えているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

1　差別者と被差別者との確執だけではなく、差別者に賛同する共犯者と被差別者との対立が差別の根底にはある
2　差別に関する旧弊な理論の残存こそが、差別の生じる具体的文脈から周囲の目をそらさせている原因である
3　差別は差別者によって同化される共犯者も含めた三者関係の中で生起し、攻撃意図がなくても差別になりうる
4　差別は差別者による意図的な侮辱や攻撃なのだという理解は、かえって被差別者に対する偏見を助長させる

問五　傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

1　暗黙のうちに機能している同化メッセージが、「われわれ」から「他者」を隔てる境界とともに顕在化する
2　「われわれ」と「他者」との間に線を引いて隔離したいという「差別者」の本音が白日のもとにさらされる
3　同化メッセージを発しようにも、「他者」を隔てる境界の位置が議論されているうちはその機会が得られない
4　「壁」自体について議論することで、「壁がある」という前提のもとに集結した「われわれ」の結束が揺らぐ

問六　傍線部⑤の説明として、適切でないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。　10

1　AもBも気をつけるべき「アレ」ではないことが前提となっている
2　「アレ」がAとBとの二人にとって既知の事実であるとは限らない
3　Bが「アレ」に関する知識を十分に持っていれば同化は回避される
4　Aからの同化メッセージでは「アレ」について明示的に語られない

問七　空欄 11 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。　11

1　「他者」の表象　　2　「われわれ」の言葉
3　「同化」の前提　　4　「わかる人」の合図

問八　傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。　12

1　女が論理的か否かという問いとともに、「わからない」主体が「私」から女を他者とする「われわれ」に移っている
2　発せられたメッセージを正しく読み解いている間にも会話は進行し、気づいた時には論点が別のものになっている
3　誰にでも理解できる発言が、論点のシフトによって「わかる人にしかわからない」メッセージへと変質している
4　個人の感覚に過ぎなかった始めの論点が対話によって拡張し、普遍的な事象を取り扱う議論へと変貌を遂げている

問九　傍線部⑦の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

13

1　同化メッセージのあいまいさによって論点がずれて正しい理解が阻まれるため、聞く者は無自覚のうちに差別に加担してしまう

2　同化メッセージの読み取りを困難にしている要因のように見えて、実はメッセージの内容を理解する手がかりを提供してくれる

3　差別者が差別意図を隠そうとするため、差別表現である同化メッセージには「わかる人にしかわからない」あいまいさが備わる

4　あいまいさを埋めて内容を理解する者を共犯者として取り込む働きを持っており、差別の構図を作り出すのに極めて有効である

〔三〕　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔三〕の 1 から 8 までとする。

剝き身のままの現実を語ることは、それを語る側にも、受け取る側にも大きな苦痛や負担となる局面は往々にしてあり、単なる「語り」ではない「騙(かた)り」が、つまりフィクションへの転換が必要になることがある。そのことを私に教えてくれたのは民話研究者の小野和子さんだ。小野さんには「東北記録映画三部作」（酒井耕との共同監督）の第三部『うたうひと』に民話語りを聞き取る聞き手として出演いただいた。四十年以上も東北地方の民話を聞き歩いてきた小野さんは映画冒頭近くで、「猿の嫁ご」という民話について語る。民話の粗筋はざっとこうだ。

山に田を持つ百姓が、田の水やりに苦労をしている。田に水をかけてくれるなら娘をやってもいいと百姓がひとりごちると、そこに猿が現れる。猿はあっという間に田に水をかけてやる。百姓は猿に、娘を嫁にやることを約束する。翌朝、上の娘と真ん中の娘には拒絶されるが、末娘は父の約束したことだからと、山に住む猿のところに嫁に行く。ある日、末娘が父は餅が好きだと言うと、猿は餅をついてそれを父のところに持っていこうと言う。末娘は猿の背に餅の入った臼(うす)を結びつけて実家に向かう。その途中で、持っていけば父が喜ぶと言って川端の木の上に咲いた藤の花を指差し、猿に取りに行かせる。しかし猿と臼の重みで木の枝はポッキリと折れて、猿は川に落ちる。猿は嫁を「後家」にしてしまうことを案じる句を詠みながら、川に流され、沈んでいく。末娘は発句を聞いて「ばか猿やぁい。だれぇ、後家になるっけやぁ」と言い放ち、そのまま実家に帰っていく。

小野さんの見解は、その著書『あいたくて きききたくて 旅にでる』（PUMPQUAKES、二〇一九年）により詳しく記されている。民話を聞き歩く旅を始めて間もなかった小野さんは、この話を聞いて「猿がかわいそうだね」と語り手の老婆に告げた。①「そんなこと考えたことなかった」と答えた語り手は、自身の過去を語り始める。自分が山を越して嫁に来たこと、姑(しゅうとめ)との折り合いが悪くて実家に逃げ帰りたいと何度となく思ったこと、しかし弟妹の縁談への悪影響を考えて耐え忍んだこと。そして「田に水を引くこと」が山の上に住むような貧乏百姓にとっては死活問題であったということ。小野さんはここま

で聞いて、猿は「田の水引きを可能にすることと引き換えに娘を取り上げる」権力者の暗喩である可能性に思い至る。現実において語り手を襲った幾つもの理不尽を、物語のなかの末娘は自力で跳ね返していく。「ばか猿やぁい。だれぇ、後家になるっけやぁ」と一段と声高に言い放つ語り手の声に彼女が②「本当にやりたかったこと」を小野さんは聞き取る。その後も聞き歩きの旅を続けながら、荒唐無稽な民話の根幹にはいつも「切れば血の吹き出すような」生々しい現実があるということの確信を深めてゆく。

『うたうひと』のための取材をしているとき、③小野さんは現代の語り手が聞き手の関心の希薄化に伴って、「語り」を変形させてしまうことに繰り返し危惧を示された。エンターテインメントやメディアの発達した現代において、民話の主な聞き手であった子どもたちはもはや民話に十分な注意を払うことができない。もしくは、民話の展開のある種の不条理に対して、付き合うに足る「リアリティ」を感じることができない。語り手はこの反応を受けて、その関心を取り戻そうと聞き慣れないであろう言葉の説明を加えたり、時には展開や結論そのものを変更してしまうことがある。一見、穏当な対応にも思えるこの状況に対して、小野さんが「お話がかわいそう」と言ったことは強く印象に残っている。口承の民話はただの、現実離れした荒唐無稽な物語ではない。それは体を寄せ、口と耳を寄せて語った身体そのものの記憶であり、その裏には土地や暮らしにまつわる記憶が、つまりは「［4］」が張りついているのだ。

「物語り」自体が受け手の関心のありようを織り込みつつ成立していることは、否定しがたい。民話の語り－聞きの場を例に取れば、それを支えているのは聞き手側の関心だと言ってよい。聞き手が語りに対して十分な関心を注ぐことによって、④物語世界が「結界」のように語り手と聞き手を包むことになる。逆に関心なきところにこの「場」は立ち現れない。このことは、目の前に受け手がいないような同時的でない「物語り」においても同様だ。一般論として語り手は、受け手の関心のありようを勘案せずには物語を構築し得ない。このことはほとんど必然的に、物語りのかたちを「因果関係の連鎖」へと導く。「事象Aを受けてBが起こり、Bの結果としてCが生じる」ように因果を連鎖させることで、語り手は受け手の関心が持続するように図る。これらの事象の組み合わせ方次第で、受け手の反応をある程度、調整可能であることもまた否めない。語り手が受け

手に応じて「語り方」の変更を試みるのもこのことに由来する。ただ、その変更によって、物語の根であるところの「現実」とのつながりが断たれてしまうのであれば、物語は存在意義を失うことになるだろう。

不条理な現実に直面させられた者は「どうしてこんなことが起きた」と問いかけざるを得ない。何でこんなに苦しいのか。何でそれに耐えなくてはならないのか。なぜ私や、私の愛する人が、特にその苦難を被らなくてはならないのか。この問いかけに答えや解決が与えられることは基本的にはない。このわからなさ＝不条理こそが「物語り」の［　6　］となることがある。不条理は物語のなかで、原因と結果のギャップとして現れもする。荒唐無稽な展開だ。ただ、そのことでかえってある現実を生きることの切実な感覚を物語に与えることがある。因果間のギャップは語りを失敗させる可能性も孕みつつも、それを飛び越えるように、語り手が受け手を誘っているとも言える。その不条理をなお信じ、物語の世界をあらしめるよう。

再び小野さんが『あいたくて～』で語るエピソードを引いてみる。民話を求めて訪れた宮城県の浜辺の村で、小野さんは太平洋戦争におけるガダルカナル島での戦闘の生き残りだと言う老漁師と出会う。「昔話を知りませんか」と尋ねる小野さんに、この男性は自分がガダルカナルで見た夢の話をする。極限的な飢餓状況のなかで、食料を巡って起こる仲間割れにも疲れた男性は翌日の戦闘で死ぬことを覚悟する。その夜、夢の中で祖母が出てきて、男性に大福餅を腹いっぱい食わせてくれた。その夢はそれから毎晩続いた。朝起きても腹が満たされ、力も漲（みなぎ）った彼は、仲間を助け、戦闘にも生き残って、郷里へと帰ってこれたのだと言う。老人は小野さんの顔をのぞき込んで「あんたはおれの話を信ずるか。信ずるなら昔話も語るよ」と言った。小野さんは「信じます、信じます」と答える。

先祖からわたしたちが受け継いでいる民話の一つひとつだって、もしかしたら、のっぴきならない現実に追い込まれたときに、そこを切り抜けていくために生み出された「あり得ない」物語の群れなのではないかと、わたしは考えてきた。夢でおばんつぁんに一週間も大福餅を食べさせてもらったという出来事は、戦友同士が殺し合うむごい地獄を見た人だけの「もうひとつの世界」なのではないか。

そこから生き延びて帰還した人が、くぐってきた地獄から抜け出すための、さらにこれからをこの浜で生きるための、描かずにはいられなかった「もうひとつの世界」の真実なのかもしれない。自分が生きるために必要であった物語の構築が、そこにこそあるのだと言ってよいのかもしれない。

老漁師さんが語るその姿に、わたしは民話というものが生まれた瞬間に立ち会っているのではないかという気持ちになった。

（『あいたくて ききたくて 旅にでる』三一四－三一五頁）

大福餅の夢が、現実に腹を満たすことは不条理である。しかし、⑤この不条理は老人にとって必要な物語であった。不条理が物語と受け手との関係を断ち切るように働くことは確かにある。関心が完全に失われてしまえば、物語はこの世で居場所を失ってしまう。そのとき語りの形を変えることも一つの方法だ。しかし、変えてしまった途端にその物語が存在理由を失ってしまうのだとすれば、語り手がなすべきことは受け手のインスタントな納得を求めて「説明」を行い、このギャップを因果で埋めることではない。ある覚悟を持つことだ。自分が語るべき物語を語ること。生き血の通った「現実」と「物語」を切り離さないこと。一方で、小野さんの挿話は物語に対して、受け手ができることを明瞭に示している。語り手の覚悟に見合うような切実な関心を寄せること、この覚悟と関心の出会う物語空間においては、活き活きとした相互作用がつくりだされ、物語は常に「いま現在」として体験される。それは、現実においても容易には得られないような充実した「生」の感覚を間断なく、語り手と聞き手の双方に与える。その感覚が、私たちがこの世界で物語を求める理由でもある。

（濱口竜介『他なる映画と 2』による）

問一　傍線部①のように言った理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

1　語り手に徹していて民話の内容が持つ意味にまで思いが至らなかったから
2　猿がかわいそうだと考えてしまうと民話の美しい世界観が損なわれるから
3　語り手として猿ではなく娘のほうに自身を重ね合わせて共感していたから
4　聞き手が民話の本質を理解できていないことを暗に指摘しようとしたから

問二　傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

1　望まない婚姻関係に抵抗すること
2　権力者の横暴を声高に告発すること
3　貧しい境遇から自力で逃れ出ること
4　現実の暗喩として民話を語ること

問三　傍線部③の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

1　語り手が努力を重ねてもエンターテインメントやメディアの発達が子供たちを民話から遠ざけてしまうから
2　先祖から長く語り継がれてきた民話を時代に合わせて改変してしまうと真正な伝統文化を保存できないから
3　言葉の説明を加えたり展開や結論を変更する程度では人々の民話に対する根本的な関心は取り戻せないから
4　聞き手の関心を勘案するあまり民話の根幹にある生々しい現実とのつながりを断つことになりかねないから

問四　空欄 4 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。 4

1　現実において語り手を襲った理不尽
2　聞き手が付き合うに足るリアリティ
3　人々の生活に基づいた口承の歴史
4　切れば血の吹き出すような現実

問五　傍線部④の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。 5

1　語り手と聞き手の相互作用によって活き活きとした語りの場が作られる
2　聞き手が語り手に働きかけることを通して物語の内容に共同性が生じる
3　語り手と聞き手が向き合う現実空間に非日常的な虚構の世界が現出する
4　聞き手が語り手と一体となることによって物語を聖なる空間に囲い込む

問六　空欄 6 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。 6

1　因縁　　2　因果　　3　遠因　　4　動因

問七　傍線部⑤の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。 7

1　極限的な飢餓状況においては夢の中の大福餅にも現実と同等のリアリティが感じられたから
2　現実そのものの不条理が極限にまで達することで否応なく描かざるをえなかった物語だから
3　過酷な現実を耐え忍ぶためには因果関係のギャップを埋めていかなくてはならなかったから
4　物語の聞き手が関心を失うことがあってもその物語が自分を救ってくれたことは事実だから

8

問八　映画監督である筆者の思いはどのように読みとれるか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1　民話の語りを記録した自分も聞き手の一人として、さらに切実な関心を寄せなくてはいけないと決意している

2　自身も物語の作り手として、現実と物語を切り離さず自分が語るべき物語を語るのだという覚悟を固めている

3　映画は語り手と聞き手が同じ場を共有するわけではないので、一定の距離を置いて民話への共感を示している

4　エンターテインメントによって民話の聞き手の関心を希薄化させている側の立場から、自責の念を抱いている

（以下余白）

2025年度　一般入試・前期A日程解答例[1月26日実施分]

英語「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・理工学部・建築学部・薬学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ						Ⅱ						Ⅲ										Ⅳ				Ⅴ					Ⅵ								Ⅶ							
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
正　解	エ	ウ	ウ	エ	ア	イ	ク	エ	オ	キ	ア	カ	イ	ウ	エ	ア	エ	イ	イ	ウ	ア	エ	ア	ウ	ウ	ア	イ	ア	ア	イ	ウ	オ	イ	ア	イ	エ	ア	イ	ウ	ウ	イ	エ	ア	ウ	エ

※44.45は順不同

国語「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部[化学生命工]・産業理工学部・短期大学部)

問題番号	〔一〕													〔二〕								〔三〕							
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
正　解	4	4	3	2	2	1	3	3	1	3	2	1	4	4	3	2	2	4	1	4	3	3	1	4	4	1	4	2	2

文系数学「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・情報学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ																				Ⅱ																				
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
正　解	4	2	6	1	8	4	5	0	2	5	4	5	8	1	8	2	1	2	4	3	2	1	2	2	3	3	2	1	2	2	3	3	2	2	6	3	5	2

問題番号	Ⅲ																			
解答番号	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
正　解	8	3	1	4	5	3	4	2	0	8	3	9	1	6	1	2	1	1	9	9

地理「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・農学部[農業生産科・水産・環境管理・生物機能科]・産業理工学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ																				Ⅱ																				
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正　解	2	3	3	2	2	4	3	6	4	1	2	2	3	1	2	3	1	1	3	3	2	4	2	4	4	4	3	3	4	1	1	1	2	3	4	4	1	3	2	4

日本史「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・農学部[農業生産科・水産・環境管理・生物機能科]・産業理工学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ																				Ⅲ																				
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正　解	4	3	2	1	4	4	1	1	3	3	4	4	2	1	3	1	4	4	1	2	4	3	4	3	2	4	4	1	2	4	1	3	4	4	1	3	2	2	1	4

世界史「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・農学部[農業生産科・水産・環境管理・生物機能科]・産業理工学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ																				Ⅱ																				
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正　解	4	2	2	2	6	4	2	4	2	1	4	1	3	4	6	2	3	3	4	4	2	2	1	3	4	2	2	2	2	4	3	1	2	1	3	5	2	3	1	1

政治・経済「1/26」(法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・短期大学部)

問題番号	Ⅰ										Ⅱ										Ⅲ										Ⅳ									
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正　解	1	2	4	3	1	3	2	4	1	1	3	2	1	4	1	2	4	4	3	3	4	3	4	1	2	3	1	4	4	1	2	1	2	3	1	3	4	1	3	2

数学①「1/26」(理工学部[理/化学・生命科]・建築学部・薬学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部)

問題番号	Ⅰ																					Ⅱ																						
解答番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ
正　解	ー	2	3	2	1	3	5	3	2	8	ー	3	4	3	7	7	8	1	8	1	8	2	9	1	9	2	7	1	2	2	3	3	5	1	3	3	2	9	6	4	3	4	7	9

問題番号	Ⅲ																					
解答番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ
正　解	2	2	8	3	4	3	3	2	6	3	4	2	0	8	3	ー	2	8	8	4	2	3	3	9

数学②「1/26」(理工学部・建築学部・薬学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部)

問題番号	Ⅰ																					Ⅱ																						
解答番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ
正　解	ー	2	3	2	1	3	5	3	2	8	ー	3	4	3	7	7	8	1	8	1	8	2	9	1	9	2	7	1	2	2	3	3	5	1	3	3	2	9	6	4	3	4	7	9

問題番号	Ⅲ																		
解答番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
正　解	2	1	6	2	3	2	3	1	3	ー	7	2	4	3	3	6	7	3	3

物理「1/26」(理工学部・建築学部・薬学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部)

問題番号	Ⅰ								Ⅱ										Ⅲ									
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
正　解	2	6	8	0	4	9	6	1	1	5	8	6	c	4	6	1	4	1	1	6	9	2	9	0	1	2	7	6

化学「1/26」(理工学部・建築学部・薬学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部)

問題番号	Ⅰ													Ⅱ											Ⅲ																
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
正　解	5	5	6	4	1	1	1	4	5	3	7	3	3	2	3	4	3	5	4	1	3	2	2	7	3	4	5	4	3	1	3	5	2	6	1	4	2	4	8	3	8

生物「1/26」(理工学部・建築学部・薬学部・情報学部・農学部・生物理工学部・工学部・産業理工学部)

問題番号	Ⅰ												Ⅱ												Ⅲ												
解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
正　解	3	0	9	6	2	1	2	7	4	3	6	4	1	9	2	3	2	8	4	8	1	9	3	6	2	5	9	1	4	1	5	9	1	1	8	6	3

問題番号	Ⅳ											
解答番号	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
正　解	6	6	3	7	2	7	3	7	4	6	5	0

マナビズム 無料体験実施中

大阪府
- 上本町校
- 高槻校
- 豊中校
- 茨木校
- 北千里校
- 堺東校
- 枚方校
- 天王寺校
- 大阪梅田校

兵庫県
- 西宮北口校
- 神戸三宮校
- 姫路校

京都府
- 四条烏丸校

愛知県
- 名古屋駅前校
- 豊田校

滋賀県
- 草津校

全国対応
- オンラインコース

申込はコチラ